

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390700124		
法人名	株式会社 波の女		
事業所名	グループホーム滝子通一丁目 (1階)		
所在地	愛知県名古屋市長和区滝子通1丁目8番地の3		
自己評価作成日	平成28年 1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2390700124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2390700124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 1月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

障害があっても、認知症があっても、この国で生きる人の生活の基本にある「自分のことが自分でできる」「人と人が互いに助け合って生きる」「社会とつながって生きる」という極めて当たり前の「人として生きる姿」を続けられるように・取り戻せるようにすることを目指しています。  
介護保険法の目的は「有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにする」とあり、そのことを追求するのが当社のあるべき姿です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平均介護度2.5の利用者全員がリビングに集まり、冷蔵庫の中の物をテーブルに出し、今日のメニューを皆で何にするかを決めることから生活が始まる。決めたメニューを作るために、足りないものを買って昼食と夕食用に毎日2回近所の市場に買物に出掛けている。  
家庭の日常生活である昼ご飯作り(食材を切る・混ぜる・焼く・盛り合わせる・配膳等)に、利用者一人ひとりの残された能力が最大限に発揮されていた。利用者の「頂きます」の声で食事が始まり、家族の団欒の雰囲気である。  
職員は必要な部分的なサポートと根気よく見守りを行っている。生活の中で自分自身を精一杯生かす利用者と支援する職員との人間関係が結ばれ、信頼関係が築かれているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最初に理念ありきで、採用時に弊社の理念の伝達共有を大切にしておりますし、HPのブログや朝礼、会議等で情報を発信しながら、日々実践に挑んでおります。	採用時に法人理念を説明し、会議や研修時に理念について振り返る機会がある。理念である「有する能力を最大限に生かす」ために、職員は「手伝いたい気持ちを根気よく見守りに徹する」を心がけている。	理念は職員に浸透しているが、理念が継続的な向上に結びつくように、ホームの年度目標を掲げて取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や庭先での洗濯干し時、行き交う地域の方々や挨拶や会話ができています。近所の商店、喫茶店や美容院を活用しています。自立度が下がる中で前年より社会参加の機会は減っています。	毎日、市場に買い物に出かけ、地域住民と挨拶を交わし、自然体で顔馴染みの関係ができています。月1回「地域交流」を企画し、利用者も地域住民と一緒に参加して楽しんでいる。市場の中で相談会も開催している。	「認知症ケア」や「認知症の係わり」について地域に向けた継続的な情報発信を行い、ホームが認知症の地域の拠点としての役割を担っていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物、外出や交通機関を利用する等で、認知症になっても自分の力を使って生きる姿を見て頂いております。障害を持ってたくましく生きる生の姿を見て頂くことが地域への安心感につながるものと考え実践しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、行政、福祉関係者、ご家族、近隣住民等へ報告し、助言や評価を頂いております。4年目の途中から有識者のメンバー変更をさせて頂きました。	運営推進会議には、いきいき支援センター・民生委員・有識者・家族・利用者・職員等の参加を得て年6回開催している。会議の課題であった有識者の参加が実現した。	議事録には開催日・時・出席者・議題・議論概要、継続課題を記録し、欠席者が見ても会議内容が理解できるものとなることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の報告書を提出したり、受診事故発生時の報告を行ったり、生保担当者に報告相談等を行いながら協力関係を築いていますが、日頃から密にとという程はできていません。	運営推進会議には2地域からのいきいき支援センター職員の参加があり、会議を通じて市はホームの状況を理解している。生活保護受給者の受け入れがあるため関係部署と密な連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4年目になり、「身体拘束はしない」という意識が定着していると思います。施錠は転倒のリスクが高い方の原因が分かるまでの間、一時的に行っております。出れる方は出れるように支援しております。	職員は身体拘束による弊害を熟知し、拘束をしないケアを実践している。以前利用者の事故が有って以来、玄関が施錠されるようになった。職員の意識としては施錠の常態化を良しとせず、早期に開錠したい気持ちで取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4年目になり、虐待予防への意識が定着していると思います。それでも日頃から職員の間、ストレスのたまり具合を把握するための声かけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階は3名の方が金銭管理を権利擁護サービス等活用しております。機会がある時に個別で仕組みについてレクチャーする事はあ るものの、全体向けの勉強会は実施できて いません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	サービス利用開始前の説明の中で、わかり やすく語句を置き換えたり例えを用いたりし ながら説明を行うと共に、質問も伺いながら 理解をして頂けるように心がけております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者が意思表出できる方が減りつつあり、要望 を言えない・言わない・分からない方からの引き 出しが必要だと思っています。ご家族からの要望 吸い上げはアンケート中心であまりできていない と感じています。	家族会や運営推進会議には家族から積極的 な意見があり、サービス向上に活かしてい る。「面会簿があると良い」の意見に対し、直 ぐに設置を行う等改善意欲は高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、もしくは毎月開催するフロア会議等で 意見・提案を吸い上げ、必要に応じて反映し ております。また、半期に一度、個別でヒア リングを実施しています。	管理者は、報告があれば「何でもやってみて 良い」との考えを持ち、毎月のフロア会議 や個別ヒアリングで意見を述べる機会は確保 されている。「波高」確認シート使用して、力 量に合わせた研修がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	日々、職員と接点を設けられるような環境設定を しており、勤怠状況も一元的に管理・把握しており ます。半期に一度ヒアリングを行い、意見を伺って いますが向上心のある者とならない者に別れてきて おり、働きかけが足りないと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	ケアの質向上に向けて随時書面やブログ、 直接助言を行っております。今年度は研修 の予定を増やし、スキルアップの機会を作っ ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	「おせっかいネット」という組織で、全国の事業所 との交流・勉強会を年2回行っております。地域と の事業者との接点は小規模多機能の地域交流 会を毎月1回実施しており、グループホームから も参加させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接時から不安や要望等を伺い、スムーズな利用開始ができるようコミュニケーションを大切にしております。入居後は他者との関係作りを構築できるよう職員が間に入って人間関係を繋ぐことができるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面接時から不安や要望等を伺い、スムーズな利用開始ができるようコミュニケーションを大切にしております。また、家族もご本人を支える支援側についていただくようお願いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは他サービスと併用利用は難しいため、必要に応じてなじみのあるお店を利用したり等、地域資源の活用を取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側にならぬよう、主体的な意思、活動を引き出すアプローチを行っておりますが、共に暮らすという視点ではなく、専門職として能力の引き出しや能力に応じる事を大切にしていますので、共に暮らすという感覚はないと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支援する側について頂くよう段階で契約時等をお願いしています。書面等による情報提供を行っていますが、身寄りのない方も多く、共に支え合う環境になっていないと感じます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所、お店やサービス等との関わりをもてるように心がけ、ご本人の希望や必要時に関わられるよう支援しておりますが、できている方とできていない方とのばらつきがあります。	「大切な人」、「大事な所」を重んじており、馴染みの喫茶店・美容院・床屋・神社等にスタッフと出掛けている。電話や郵便による差入れの関係継続にも取り組んでいる。「住んでいた伊勢に行きたい」も実現した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係はある程度把握できておりますし、関わり合いや協力関係はありますが、認知症の状態や性格、相性等の要素により「支え合う」という場面ができていない方がみえます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、家族、サービス事業書等より連絡があれば、いつでも応えていきたいと考えております。また、こちら側の入居者さんから、退居された方の安否を気遣うような話が出た場合も同様にフォローしていきたいと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を食べたいか？お風呂はいつ入るか？行きたい所はあるか？等その時その時の「思い」の把握はしておりますが、暮らし全般は方向性については把握しきれていない方(適切な判断ができない方等)もあります。	余り喋らない利用者には日常の関わりの中で、表情や動作から利用者の気持ちを理解するように努めている。家族来訪時には、情報収集して本人の思いや意向の把握に向けて取り組んでいる。	輝いていた時代を思い出させる(当時のアルバム・新聞・写真・ポスター・スターの写真等)きっかけ作りを積極的に行い、一人ひとりの思いの把握に取り組むことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりの簡単な情報は入手して情報共有できるよう書類整備、申し送り等を行っています。初期に聞きこんだ少ない量のままあまり増えていないのが現状です。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活ですので、ある程度全体の流れに合わせた過ごし方になっています。その方の持つ能力を、生活行為の中で発揮して頂く事で、新たな生活リズムを構築する事も大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議の中で、個々の状態像の確認を行うとともに、必要に応じて新たなアプローチを共有するようにしています。計画の内容把握と実施がスタッフ間に徹底できていないのが課題です。	家族アンケートでの「介護計画書を家族に説明」の項目について、回答者全員から好評を得ている。介護計画は、フロア会議で検討し、計画担当者が主体となって立案している。	利用者一人ひとりの日々のケアの個別化が出来ているが、利用者の思いや意向に着目した個別性の介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個人ごとの記録を残す事を実践できていますし、出社時に記録を読んでから仕事に入るようにしています。また、記録から必要な情報を読み取り、介護計画への反映を行う事はできています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて社会資源を活用するということはある程度できていると思いますが、サービスの多機能化とまではいけていないと思います。生活リズムが固定的になっている感もあり、柔軟に動ける機会が減っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶、市場、スーパー、薬局、美容院等々の地域資源を活用しながら暮らしを支援してきましたが、心身共に能力が下がってきている方の支援に手がとられ、頻度が減っているのが現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけの先生に往診に来て頂き、ご本人の状態、希望を聞きながら医療を受けています。また状態に応じて、過去の病院や近隣の医療機関の受診を行っております。	利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医としている。協力医の月2回の往診の他、週1回訪問歯科・訪問看護が来訪している。他科・専門医受診は家族対応を基本としているが、職員対応が多くなった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師さんの来所時に、気になる事をお伝えし、見て頂いたり処置や指導をして頂くと共に、かかりつけの医師と連携を図って頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供や早期退院に向け、担当医と話し合いを行い、連携を行っていきたいと考えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の契約時に「急性期・重度化・終末期ケア対応指針」についての説明と同意を頂いております。	管理者は本人・家族の意向があれば看取りを行う思いがあり、医師・看護師・職員・家族が連携して今年度看取りを経験した。初めての葬儀をホームで行ったが、利用者・近隣の方々の参加もあり温かい葬儀となった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練を定期的に行っていますが、24時間対応のオンコール体制にて、即時対応方法等の指示、支援を受けられる体制は確立されております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しております。訓練時に地域住民の方々への参加もあり、今後も協力体制を強化していきたいと思っております。	併設の小規模多機能居宅事業と合同で年2回避難訓練(夜間想定含む)を実施している。地域からの参加があり、ホーム内の見学を行い、協力体制の構築に向けて取り組みが進展している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するという意識はありますが、言葉かけに関してはまだまだ不適切な表現があったり、他の仕事との兼ね合いで、尊重した関わりができていない時もあります。スタッフによって偏りがあるのも事実です。	入居時に、本人の希望する呼び方を確認し、意向を尊重している。利用者一人ひとりを尊重した対応を大切にしている。携帯電話で利用者を撮影することがないように、個人のプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に食事のメニュー決めを皆に伺い、食材の買い出しを行っています。入浴の有無やタイミング等も自己決定できるように伺っています。色々伺う事を大切にしていますが、意思表示できない方も増えているのが現状です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行く行かない、自室で過ごす等ご自身のペースで過ごして頂いております。ただ、共同生活の性質上、自分のペースで動きにくい時があったり、介助や付き添いに手がとられその人らしい過ごし方まで支援できていない現状があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に歯磨き、洗面、髪セットを行い、その日の服もご自身で決めて着ておられる方もみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日何を食べたいか？から始まり、買い出し、調理、片付けを入居者さんが主体的に行えるように支援を行っております。食事中がいい雰囲気になるよう配慮できるスタッフとそうでないスタッフがいるのが現状です。	毎日の献立を利用者とともに決め、利用者主体で毎日2回の買い物に出かけている。調理・味付け・盛り付け・片付けの一連の行為を利用者一人ひとりに合わせた役割がある。晩酌や喫煙をたしなむ利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスはあまり考慮されていません。水分に関しては、いつでも飲めるように常時テーブルにお茶を置いてあります。それに加えOS-1など、状況に応じ補給に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、昼の歯磨きを行っていない方が多いですが、夕食後の歯磨き、入歯の洗浄支援は行えています。定期的に訪問歯科にて状態把握や処置等を行っております。毎食後行われる方はお一人のみです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	うまく排泄できない方への失禁予防やおむつ減らしの取り組みはあまりできていません。定期的に誘導をしている程度で、対処的になっている場面も少なからずあります。	排泄チェック表を付け、利用者の排泄パターンを把握して、声掛け・誘導している。排便失禁の利用者のサインを見逃さず、生活習慣をつけたことで排泄の一連の流れが確保された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヨーグルト、オリゴ糖等の活用や日常生活の中で体を動かす機会を作る等心がけております。それでも便秘がちになる場合は主治医と連携して、投薬でコントロールする場合があります。食事の工夫や職員の便秘に対する意識不足はあると感じています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本16時から22時くらいの間で声かけし、臨機応変に入浴できるようにしています。介助の必要な方は入浴時間帯が限られたり、時間の都合で声かけできない時もあります。声かけは行なってもなかなか入浴できない方がみえます。	生活習慣を大切に、入浴は夕方から22時まで可能である。朝早い入浴にも対応し、5時から朝風呂を楽しむ利用者もいる。入浴を拒否する利用者には無理強いせず、重度化した際には併設の機械浴を使用する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は自由ですし、日中の活動量を確保することで夜の睡眠につなげています。また、室温や音等の配慮等、環境面の配慮も行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理はできておりますが、目的や副作用については周知できておりません。個別のファイルには服薬の情報ははさんでおりますので、すぐに確認ができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的に掃除、洗濯、食事に関する日常生活行為をなるべく行って頂く中で、「できる」自分や役割を感じて頂く機会を設けています。その他で喫茶店やドライブ等の楽しみを感じられる支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常的に参加できるよう皆さんに希望を伺っていますが行く方が偏っている現状があります。常に外に行かれてしまう方の見守りが時折できていない時があるのと、その方に手がとられて他の方が出にくくなっている現状にあります。	毎日、市場への買物には車いすを利用者が押したりして午前・午後に出かけている。雨の日には合羽を着て出掛け、毎日の食材の買物は習慣化されており、地域と交流する日常的な外出である。「居酒屋に行きたい」等、発した言葉を大切に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物の中で財布を預け、購入や支払いを行って頂いております。その他、何か購入したり外食する機会がある時なるべくお支払いをして頂けるように心がけています。一部の方は少額ですが自己管理をしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話をかける事はできますが、現状機会はありません。家族からの電話の取次を時折する程度です。はがきを出す機会はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや食器棚は木目、調理器具や家電、食器等は一般家庭用のものを使用し使いやすいさと生活感を出しています。TVを設置し必要に応じて活用しています。	利用者が集まる南向きリビングは、窓辺に植木や花が置かれ採光もよく騒音や振動は感じられない。食器棚やテーブルは昔ながらの木製品である。普通の家庭のように掲示物を少なくして、会話しやすい環境作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中のほとんどをリビングで過ごされる生活習慣が定着しておりますが、思い思いに過ごせている方とそうでない方がみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転居前の使い慣れた物を持ち込んでいたり、自分らしさを感じることができるよう部屋作りを進めています。私物が多い方とほとんど物がない方(生活保護の方)がみえます。清掃は行き届いているとは言えない現状があります。	「何を持ってきてもよい」との管理者の考えの下、神棚や馴染みの置物、テレビ、化粧品、療術師の免許状、書籍が持ち込まれている。持ち込まれたタンスは転倒防止策がとられ、安全面への配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる」「わかる」はもちろんのこと、建物の環境を活用する中で「考える」「使う」機会を多くすることで、有する能力を発揮した自立に近い生活を目指しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390700124		
法人名	株式会社 波の女		
事業所名	グループホーム滝子通一丁目(2階)		
所在地	愛知県名古屋市長和区滝子通一丁目8番地の3		
自己評価作成日	平成28年 1月18日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390700124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2390700124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	愛知県名古屋市長左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成28年 1月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

障害があっても、認知症があっても、この国で生きる人の生活の基本にある「自分のことが自分でできる」「人と人が互いに助け合って生きる」「社会とつながって生きる」という極めて当たり前の「人として生きる姿」を続けられるように・取り戻せるようにすることを目指しています。  
介護保険法の目的は「有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにする」とあり、そのことを追求するのが当社のあるべき姿です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	最初に理念ありきで、採用時に弊社の理念の伝達共有を大切にしておりますし、HPのブログや朝礼、会議等で情報を発信しながら、日々実践に挑んでおります。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物時等、行き交う地域の方々と挨拶や会話ができています。近所の商店、喫茶店や美容院を活用しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物、外出や交通機関を利用する等で、認知症になっても自分の力を使って生きる姿を見て頂いております。障害を持ってたくましく生きる生の姿を見て頂くことが地域への安心感につながるものと考え実践しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、行政、福祉関係者、ご家族、近隣住民等へ報告し、助言や評価を頂いております。4年目の途中から有識者のメンバー変更をさせて頂きました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の報告書を提出したり、受診事故発生時の報告を行ったり、生保担当者に報告相談等を行いながら協力関係を築いていますが、日頃から密にという程はできていません。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4年目になり、「身体拘束はしない」という意識が定着していると思います。施錠は転倒のリスクが高い方の原因が分かるまでの間、一時的に行っております。出れる方は出れるように支援しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4年目になり、虐待予防への意識が定着していると思います。それでも日頃から職員の言動に注意を払うとともに、ストレスのたまり具合を把握するための声かけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護サービス活用時等、機会がある時に個別で仕組みについてレクチャーする事はあるものの、全体向けの勉強会は実施できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始前の説明の中で、わかりやすく語句を置き換えたり例えを用いたりしながら説明を行うと共に、質問も伺いながら理解をして頂けるように心がけております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望を聞く機会として、改めて集まり意見聴衆の機会を設けました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、もしくは毎月開催するフロア会議等で意見・提案を吸い上げ、必要に応じて反映しております。また、半期に一度、個別でヒアリングを実施しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、職員と接点を設けられるような環境設定をしており、勤怠状況も一元的に管理・把握しております。半期に一度ヒアリングを行い、意見を伺っていますが向上心のある者とならない者に別れてきており、働きかけが足りないと感じています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質向上に向けて随時書面やブログ、直接助言を行っております。今年度は研修の予定を増やし、スキルアップの機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「おせっかいネット」という組織で、全国の事業所との交流・勉強会を年2回行っております。地域との事業者との接点は小規模多機能の地域交流会を毎月1回実施しており、グループホームからも参加させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接時から不安や要望等を伺い、スムーズな利用開始ができるようコミュニケーションを大切にしております。入居後は他者との関係作りを構築できるよう職員が間に入って人間関係を繋ぐことができるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面接時から不安や要望等を伺い、スムーズな利用開始ができるようコミュニケーションを大切にしております。また、家族もご本人を支える支援側についていただくようお願いをしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは他サービスと併用利用は難しいため、必要に応じてなじみのあるお店を利用したり等、地域資源の活用を取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側にならぬよう、主体的な意思、活動を引き出すアプローチを行う先に、入居者が職員から自立して動く場面が出ております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支援する側について頂くよう段階で契約時等でお願いしています。書面等による情報提供を行っていますが、身寄りのいない方も多く、共に支え合う環境になっていないと感じます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所、お店やサービス等との関わりをもてるように心がけ、ご本人の希望や必要時に関わられるよう支援しておりますが、できている方とできていない方とのばらつきがあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	力のある入居者さんに気を使ったり、合わせたたりする他入居者さんの姿が目立っており、力加減の調整が難しい場面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、家族、サービス事業書等より連絡があれば、いつでも応えていきたいと考えております。また、こちら側の入居者さんから、退居された方の安否を気遣うような話が出た場合も同様にフォローしていきたいと考えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を食べたいか？お風呂はいつ入るか？行きたい所はあるか？等その時その時の「思い」の把握はしております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりの簡単な情報は入手して情報共有できるよう書類整備、申し送り等を行っています。初期に聞きこんだ少ない量のままあまり増えていないのが現状です。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活ですので、ある程度全体の流れに合わせた過ごし方になっています。その方の持つ能力を、生活行為の中で発揮して頂く事で、新たな生活リズムを構築する事も大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議の中で、個々の状態像の確認を行うとともに、必要に応じて新たなアプローチを共有するようにしています。計画の内容把握と実施がスタッフ間に徹底できていないのが課題です。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個人ごとの記録を残す事を実践できていますし、入社時に記録を読んでから仕事に入るようにしています。また、記録から必要な情報を読み取り、介護計画への反映を行う事はできています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて社会資源を活用するということはある程度できていると思いますが、サービスの多機能化とまではいけていないと思います。生活リズムが固定的になっている感もあり、柔軟に動ける機会が減っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶、市場、スーパー、薬局、美容院等々の地域資源を活用しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回かかりつけの先生に往診に来て頂き、ご本人の状態、希望を聞きながら医療を受けています。また状態に応じて、過去の病院や近隣の医療機関の受診を行っております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師さんの来所時に、気になる事をお伝えし、見て頂いたり処置や指導をして頂くと共に、かかりつけの医師と連携を図って頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供や早期退院に向け、担当医と話し合いを行い、連携を行っていきたいと考えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の契約時に「急性期・重度化・終末期ケア対応指針」についての説明と同意を頂いております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の訓練を定期的に行っておりますが、24時間対応のオンコール体制にて、即時対応方法等の指示、支援を受けられる体制は確立されております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しております。訓練時に地域住民の方々への参加もあり、今後も協力体制を強化していきたいと思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するという意識はありますが、言葉かけに関してはまだまだ不適切な表現があったり、他の仕事との兼ね合いで、尊重した関わりができていない時もあります。スタッフによって偏りがあるのも事実です。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に食事のメニュー決めを皆に伺い、食材の買い出しを行っています。入浴の有無やタイミング等も自己決定できるように伺っています。色々伺う事を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物に行く行かない、自室で過ごす等ご自身のペースで過ごして頂いております。ただ、共同生活の性質上、他者に気を使い窮屈な場面が増えてきています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時に歯磨き、洗面、髪セットを行い、その日の服もご自身で決めて着ておられる方が半分くらいで、残りの方は職員で選択肢を作らせて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日何を食べたいか？から始まり、買い出し、調理、片付けを入居さんが主体的に行えるように支援を行っております。食事中がいい雰囲気になるよう配慮できるスタッフとそうでないスタッフががいるのが現状です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスはあまり考慮されていません。水分に関しては、いつでも飲めるように常時テーブルにお茶を置いてあります。それに加えOS-1など、状況に応じ補給に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、昼の歯磨きを行っていない方が多いですが、夕食後の歯磨き、入歯の洗浄支援は行えています。定期的に訪問歯科にて状態把握や処置等を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	うまく排泄できない方への失禁予防やおむつ減らしの取り組みはあまりできていません。定期的に誘導をしている程度で、対処的になっている場面も少なからずあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を含む食材を取り込む等、食材の工夫をしながら便秘がちになる場合は主治医と連携して、投薬でコントロールする場合があります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本16時から22時くらいの間で声かけし、臨機応変に入浴できるようにしています。介助の必要な方は入浴時間帯が限られたり、時間の都合で声かけできない時もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は自由ですし、日中の活動量を確保することで夜の睡眠につなげています。また、室温や音等の配慮等、環境面の配慮も行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理はできておりますが、目的や副作用については周知できておりません。個別のファイルには服薬の情報ははさんでおりますので、すぐに確認ができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的に掃除、洗濯、食事に関する日常生活行為をなるべく行って頂く中で、「できる」自分や役割を感じて頂く機会を設けています。その他で喫茶店やドライブ等の楽しみを感じられる支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常的に参加できるように皆さんに希望を伺っています。入居者さんから「どこか連れてって」とリクエストがある時は、希望がかなうように調整して外出しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物の中で財布を預け、購入や支払いを行って頂いております。その他、何か購入したり外食する機会がある時なるべくお支払いをして頂けるように心がけています。一部の方は少額ですが自己管理をしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話をかける事はできますが、現状機会はありません。家族からの電話の取次を時折する程度です。はがきを出す機会はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや食器棚は木目、調理器具や家電、食器等は一般家庭用のものを使用し使いやすいさと生活感を出しています。TVを設置しないようにして、その分職員がコミュニケーションを図れるよう心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中のほとんどをリビングで過ごされる生活習慣が定着しておりますが、思い思いに過ごせている方とそうでない方がみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転居前の使い慣れた物を持ち込んでいたり、自分らしさを感じることができるような部屋作りを進めています。私物が多い方とほとんど物がない方(生活保護の方)がみえます。清掃は行き届いているとは言えない現状があります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる」「わかる」はもちろんのこと、建物の環境を活用する中で「考える」「使う」機会を多くすることで、有する能力を発揮した自立に近い生活を目指しています。		